
WINTER 2022

COWRA JAPANESE GARDEN & CULTURAL CENTRE

FRIENDS OF THE GARDEN NEWSLETTER



WINTER IN THE GARDEN

FUTURE EVENTS

イベント

7月 Troy Jones氏の
陶芸展示

8月 Linda Chant氏の
絵画と彫刻展示

9月24日 桜祭り

冬のガーデンは、霧がかかり涼しい日が続いていますが、豊かな緑と早咲きのあんずが、訪れる人の目を楽しませてくれています。また、冬はほかの季節には葉や花で隠れてしまう草木の枝ぶりなどを、じっくりと観察することができる季節でもあります。

まだ少し先のことですが、私たちの頭の中にはもう春の文字が浮かんでいます。そして、春といえば「さくらまつり」。この2年間はパンデミックによって中断されていましたが、今年は9月24日(土)に開催いたします。桜の花はもちろんのこと、文化的なパフォーマンス、アクティビティ、屋台などが楽しめる一日です。チケットは、当ウェブサイトのリンクから入手できます。
<https://www.cowragarden.com.au/>

WHAT TO SEE IN WINTER

冬の見どころ

比較的静かな季節ですが、冬にも見どころがあります。庭園を訪れた際には、ぜひご覧ください。

梅

紅葉スモモ (ベニバスモモ)
ローズマリー 'ブルーラグーン'
オーストラリアン・ローズマリー (ウエストリングア)
スリプトミーン サクシコーラ
ボケ (クサボケ)



THE CONCEPT OF MA IN GARDEN MAINTENANCE AND LIFE



庭園のメンテナンスと人生におけるコンセプト

「間」(ま)の概念は、時間の休止や空間における空虚と表現されることがあります。「間」は日本の建築、美術品、庭園デザイン、詩歌などにも見られ、人生のあらゆる側面に関わっています。生け花にも間、空間があり、目的のある空間は、目に見えないエネルギーを全体にもたらしめます。また、敬意を表するためにお辞儀をするときも、「間」を作ることによって、その「間」自体に意味を持たせています。

カウラ日本庭園のガーデニングチームは、この「間」の原則に則って手入れを行っています。日本庭園で意図的に「間」が使われていることを認識しながら、お庭を散策してみてください。

空白を取り入れた、示唆に富んださりげないデザインは、見る人を魅了し、それにより、未完成のものを完成させることができます。空白は強力な増幅器であり、個々のパーツの総和よりも魅力的な全体を作り出すのです。非対称のバランスは自然であり、ダイナミックです。2つ以上の静止した物体の間隔、空間、または空白を観察してみてください。

例えば、2つの岩や木の間の空間 - その空間の取り込みは美的であり、哲学的でもあります。そこに人や物、出来事が現わされるのです。

LADY MACINTYRE DOLL COLLECTION

Catherine Bennett, Cultural Centre Volunteer

レディマッキンタイア人形コレクション

キャサリン・ベネット（文化センター・ボランティア）

マッキンタイア夫人は、夫のローレンス・ジム・マッキンタイア氏が駐日オーストラリア大使であった1960年から1965年の間、日本各地を旅行し、人形を集めていました。現在庭園が所蔵している440体以上に及ぶそのコレクションは、ローレンス・マッキンタイア夫妻から寄贈されたものです。

これらの人形は、主に2体1組で、その多くは日本の各地の伝統が表現されています。有名な温泉や富士山などの特定の場所のお土産として作られたお人形もあります。



富士登山の記念として作られたこけし



アイヌ民族を表した人形

上の写真の人形は、富士山五合目のお土産です。富士登山の際、五合目までは車や鉄道で行くことができますが、そこからは徒歩で登ります。登山の期間は比較的気候の良い7月1日から9月10日までと決められています。

左の二体の人形はアイヌ民族のウタリ族を表しています。アイヌは日本の先住民族で、主に北海道に住んでおり日本語とは違う、独自の言葉を持っています。人形に施された大胆な模様は、アイヌの衣服の刺繍を表しています。また、女性の人形にはアイヌの女性が口の周りに入れる刺青も描かれています。アイヌの女性は口の周りや前腕に刺青を入れていました。

右の写真は青森県産の2体の人形です。本州最北端の県、青森県は奥羽山脈によって分断されており、特に青森県西部は、季節風の影響を受けやすい地域です。日本海からの季節風の影響を受けるためしばしば大雨に見舞われ、冬には豪雪地帯となります。青森県の人形は、藁でできた伝統的な頭巾を被っています。山間部に降る激しい雨や雪をしのぐためのものです。



青森産の人形

STAFF PROFILE

スタッフ紹介

名前 ヘレン・デイリー
ポジション カルチャーセンター
カスタマーサービス
(2020年10月より)
経歴 カウラ出身。
カウラ高校で日本語を、
大学で文化人類学を学ぶ。
2019-2020年は
愛媛県にて英語教師として勤務。



Q: 庭園の好きな季節は？

A: 秋はガーデンの中でとても素敵な季節ですね。
オーストラリアでは常緑樹に慣れているため
秋の紅葉が始まると 壮観です。
この庭園で働き始めてから 桜の木には春と秋の
2つの季節があることを知りました。
秋には鮮やかな紅葉が楽しめます。

Q: カルチャーセンターのどんなところが面白いですか？

A: 大学で人類学を学ぶうちに、私は文化財とそれが持つ意義に魅了されるようになりました。
美術品や文化財の保存を考えると「劣化の原因」として、不適切な温度や光量不足などが
あげられますが、興味深いことに、この「劣化の原因」の中には、その文化財が、歴史から
切り離されてしまっている、という事実があるのです。
文化財は、歴史的・文化的文脈の中にあることが多い意味を持っているといえます。
さらにそれは、人々が過去と現在について学び、理解するのに役立つことを示しています。
将来的には、文化センターが、カウラと日本とのつながりの歴史的な意義を理解してもらおう一助と
なることを願っています。



GARDEN VOLUNTEERS

日本庭園のボランティアスタッフ

ピーター・ウッズ氏は2016年からカウラ日本庭園の
ボランティアとして活動しています。
彼の長年のボランティア活動を認め、その献身に
感謝の意を表します。

庭園と文化センターのボランティアは、設立以来
重要な役割を担っています。
ボランティア活動にご興味のある方は、
お気軽にご連絡ください。

残念ながら、マネージャーのシェーン・バッジは、
7月22日をもって退職することになりました。